

# 山梨大学

山梨大学は甲府盆地の中にあり、四方を山に囲まれ、富士五湖へ車で約1時間、あの百恵さんのペンションがある清里へは約40分で行ける自然環境の良い所にあります。大学は工学部と教育学部の2学部からなる小規模編成で、教育学部は学部まで、工学部は修士課程まであります。工学部の中で計算機科学科は昭和45年に設立された比較的新しい学科です。

設立の理念は、「電子計算機とその利用に関する基礎理論をきわめ、計算機を高度に利用するための学問体系の確立と、計算機のもつ無限の可能性を追求すること」とされています。計算機を中心にすえて、計算機利用技術とソフトウェアの学問としての体系化、工学的諸問題を計算機をもちいて解こうとするさいに必要となる能力を幅広く養う学問の研究、の二本柱が理念であると言えます。

学部学生の定員は1学年60名（正規）で、5講座10研究室で専門教育にあたっています。各講座の主な専門分野は次のとおりで、学科としての幅の広さが特色です。

数理工学第1講座 微分方程式、代数

数理工学第2講座 数値解析、OR

計算機械第1講座 音声認識、画像処理、人工知能

計算機械第2講座 統計、データ解析、ソフトウェア工学

計算機械第3講座 コンピュータ・グラフィックス、基本ソフトウェア

学生諸君は講座のキーワードに関係する内容の講義を、実質的にはほぼ必修専門科目として履習し、その他にプログラミング実習、ハードウェア実習、専門科目の演習でかなりしぼられます。

実習演習にもちいられる計算機システムはかなり恵まれており、本年4月からはVAX785に70台の端末をつなぎ、UNIX 4.2 BSDをOSで使用しております。UNIXの採用はメーカー提供OSでないという不安があ

りましたが、ソフトウェア担当の教職員をはじめとするチームの努力で、親しみやすいシステムとして順調に稼働しています。70台の端末は多少応答時間が気になることがあります。それを補って余りあるのは実習時に学生1人1台の端末があるということです。これによってサボるとすぐバレるという切実な点から、また、平等に自分の座る席があるということからくる愛着感から、以前に増して積極的に課題にとりくんでいます。

それやこれやで4年生になると研究室に配属されて卒業研究を行なうこととなります。テーマは学生の自主性にまかせる、先生の仕事のお手伝い等、とりくみ方・内容ともに多様です。大半の学生は「わけのわからない対象から手に負える問題を取り出すが大変」と思い、先生方は「この問題がなぜ面白いのか」を理解させるのが一苦労です。この経験は卒業論文の成果はともかくとして、将来役立つもののようなものです。

修士課程へ進学するのは15名位です。規則はありませんが、ほとんどの学生が卒業研究で選択した研究室を希望し、修士論文のテーマも卒業論文の延長線上に選びます。

以上、学科の雰囲気をお伝えするために、オペレーションズ・リサーチにこだわらずに紹介させていただきました。最後に、少しその関係の話をいたします。ORに関係の深い研究室は統計の研究室と筆者の研究室です。前者では、品質管理と統計的データ解析が盛んで、常識的な品質管理からソフトウェアの品質管理、生物生産システムのエネルギー分析に力を入れています。筆者の研究室ではできるだけ実際の問題を扱うように、山梨県の地理情報システムとか卒業論文選択の意思決定問題といった内容を学生のテーマとしております。今後とも幅広い専門分野の中でもまれて良い応用を見つけだしてゆきたいと考えています。 (田口 東)